

《二》次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(字数制限のある問題は、句読点も一字に数えます。)

北京オリンピックでは、「二世」の活躍が目立った。柔道の石井、フェンシングの太田、レスリングの湯元、他にもトランポリン、カヌー、重量挙げなどで親子二代のスポーツ選手がいた。有名などころでは、女子レスリングの浜口は父娘のコンビとして知られ、卓球の愛ちゃんだって、最初は経験者の母親が教えた。今回は活躍しなかったが室伏だって、出場しなかった井上康生だって……。

①これはどういうことだろう、たまたま今回目立ったのか、それともDNAか？

親も名のある選手であったケースが、ニュースとして取り上げられた。だが、それは氷山の一角で、親がスポーツマンで、子の成長に関与したという例は、非常に多いだろう。ならば、背の高い親に背の高い子が生まれる、という具合に、親からの遺伝の要素が強いからなのか。しかし、親子二代で金メダル、といったレベルになるとこれまで、タイソウの塚原父子のみである。むしろ、親は平凡なスポーツ好き、あるいはメダルへあと一步の選手だったが、子が親の期待に応えた、というのがよくある事実である。では、親が果たせなかった夢を、自分より才能のある子に託して猛特訓した、という、『巨人の星』の実践編なのか、ということ③が微妙に違う。

私は『二世論』(新潮文庫・『親子の作法』を改編)で、各界の成功した二世にインタビューして、いくつかの共通点を見出した。その一つは、「親は教えない」ということであつた。親は、教えては子が自分以上にならないことを、自分自身の苦勞で知っている。一方、子の方は親を越えるためには、親を否定し、対決しなければならないことに気が付く。オリンピックの「二世」たちも全く同じに思える。オリンピックで活躍するような選手は、そもそも早くから親の水準を越えてしまい、親は教えられなくなる。猛特訓は、専門家に託すのだ。

では、親が「教えない」としたら、親は何をしたのか。きつかけを与えたのだ。柔道を、水泳を、野球を始める環境を与えたのだ。中には、自宅を改造してレスリングのマットを作った親もいる。とりわけスポーツのような、本人が大人になってから選んでいるは一流になるのに後れを取ってしまう分野では、人生の始まりのダンカで、その楽しさ、苦しさを乗り越える快感を「教える」ことは重要であろう。でも、そのあとは、親という存在を目標とし、親の言葉を心のササえとし、子が「学ぶ」のだ。「教える」はきつかけであり、人は自ら「学ぶ」ことで真に成長する。

しかし、反復練習によって技を積み上げていくスポーツなら、「教え」込むことで、成長するのでは、と人は思うかも知れない。たしかにある水準までは、それも相当に高いところまで行けるだろう。しかし、金メダルを争うところでは「反復練習」は利かない。これまで無かった条件や事態に対処して、前人未踏のイキに入っていく。そこでは、親離れた子の自立が必要である。その「最後の一步」が届くか届かないかの違いは、今回のオリンピックでも、どれとはいわないが、見られたように思える。親子鷹よりも、鷹が鷹を生むのが現実なのだ。

【船曳建夫『北京五輪「二世」の活躍』(2008年9月2日 讀賣新聞)】

問一 傍線部①「これはどういうことだろう」とあるが、筆者は本文全体でどういうことだと言っているか、「これ」の内容を明らかにしたうえで、八十字以上百字以内で説明しなさい。

問二 傍線部②「それ」は何を指すか。二十字以内で答えなさい。

問三 傍線部③「微妙に違う」とあるが、どう違うのか、説明しなさい。

問四 傍線部④「全く同じ」とあるが、何と同じなのか。十字以内で答えなさい。

問五 傍線部⑤「その『最後の一步』が届く」とはどういうことか。文中の語句を用いて説明しなさい。

問六 傍線部⑥「親子鷹」とはここではどういうことか。三十字以内で説明しなさい。

問七 傍線部⑦「鷹が鷹を生む」とはここではどういうことか。四十字以内で説明しなさい。

問八 波線部A～Dのカタカナを漢字に直しなさい。

《二》次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(字数制限のある問題は、句読点も一字に数えます。)

オシフィエンチムの町に入る手前の小さな踏切で、わたしの乗ったクラクフのタクシーは、三十分以上も待たねばならなかった。黒煙を太く吐きながら、ポーランドのミドリ色の機関車が百両ちかい長い貨車を曳いて、上り下りともに重々しく単調な響きをのこして、わたしの視野を横切って、通過していった。

それからイ、車は、一九四〇年から四五年のあいだにおよそ四百万人にもおよんだ死者となるべきユダヤ人を運んでいた線路を越えて、アウシュヴィッツというドイツ名で知られるオシフィエンチムの町なかへ、ゆつくりと入っていった。

オシフィエンチムの強制収容所の第一キャンプ(アウシュヴィッツ収容所)のがつしりした赤煉瓦づくりの建物は、いまでも大きな貨物の集結駅となっている駅のすぐはずれに、鈍色の秋の光に沈んだ木々と、赤錆びた当時の鉄条網に囲まれて、ロ町並みのつづきであるかのようにさりげなく立ち並んでいた。

ハ、アウシュヴィッツ収容所でわたしが最初に目にしたものは、思いがけなくも、収容所の入口まえに建てられたいかにも今日のなレストハウスと、そのまえにずらりとならんだ国営旅行社の観光バスと、そしてアイスクリームを舐めながら、ざわざわと歩いているたくさんの方の観光客の姿だった。アウシュヴィッツ収容所は、今日の観光団体の名所めぐりの一つとなっていた。有名な「アルバイト・マハト・フライ」と書かれた収容所の門をくぐると、そこは二、収容所跡というにはあまりにきちんと手のくわえられた収容所博物館になっているのだった。二十八棟からなる第一キャンプのうち犠牲者の悲惨な遺品を展示している幾棟かのみ内部に入れるようになっていて、もう日本の十一月末のような寒い秋の午後の日差しにつつまれた、それらの公開されている赤煉瓦の建物のあいだを、ガイドに引率されたさまざまな観光客たちが賑にぎしく、ぞろぞろと歩きまわっていた。それは、しかし、なんと奇怪な観光名所だったことだろう。巨大なガラス室に収められたこの「博物館」の展示品は、展示品というにはあまりにむごたらしく、凄絶な記念品だ。

紡錘形のガラス壺にぎつしり詰められた米のとき汁のような色をした人間の灰。部屋いっぱいぶちまけられた女の髪。ぎこちなくも生なましい義足の山。からみあった眼鏡のつる。トランクと靴の堆積。いたいけな赤ん坊の晴れ着。どう見てもふつうの羊毛セihinと区別のつかない人間の髪で造った毛織物。チクロンBのカーキ色の空缶。細目別にびつしりと書きこまれた、ユダヤ人の「処理」を示すおびたしい黄ばんだカード。それらの正視しがたい展示品が、悪い夢のように、暗い部屋のなかに無言のままひろげられていた。

だが、そのとき、気づいた。部屋の出口で、ガイドがうんざりしたような表情で、壁にもたれて観光客を待っていた。ガイドつきでしか、この収容所博物館は見るできない。ガイドは、手を開き手を握って、一人、明らかに退屈しきっていた。そのさまが、異郷の観光客にはさまれてそれらのガラスケースの前を歩いていったわたしの、目を突いた。そしてそのときわたしは、不意に怖い疑いにとらわれはじめている自分に、気がついたのだった。

今日ほんとうに怖いのは、それらの恐怖と悲惨の記念品であるより以上に、わずか二十六年前の信じた大量虐殺をすらもはや現在において観光の対象としてしまっているわたしたちの「戦後」というもののありようではないのか。これは間違いだ。わたしたちの「戦後」は記憶というものを、こんなふうなしかたでひどく間違えたものにしてきてしまった。この、セイカクに配慮され、デザインされ、整備された展示品は何か。壁に大きく引き伸ばされた写真は何か。この、真新しい毒ガスの罫のモケイは何か。新たにホキョウされたコンクリートの白い床は何か。どんな説明もとうに暗誦してしまっているガイドとは何か。そしてこの、ここにいるわたしは何なのか。

そうした収容所博物館の今日のありようが、記念品の逃れがたい苛酷な印象以上に、そのときわたしに突然、無気味に、不安にみちて感じられたのだった。

ここに遂にないのは、ここで一人の人間が死んだ、みずからの生きる場所を奪われた一人の人間が四百万人死んだ、という記憶だった。数として死ななければならなかった死者に、戦後の世界が象徴としての二度目の死を強いてきたこと、強いているという。そうではなく、しなければならぬことは、とわたしは思った。死者をして、ただ一人の人間としてわたしたちのあいだにとりもどし、いま、この死者として回復することなのだ、と。

(長田弘『読むことは旅をすること』)

※「アルバイト・マハト・フライ」……「働けば自由になれる」の意。

※チクロンB……強制収容所のガス室で用いられたとされる毒ガス。

問一 に最も適切な語をそれぞれ次の1～7から選び、その番号を書きなさい。(同じ番号を二度以上用いてはいけません。)

- 1 あたかも 2 すくなくとも 3 すでに 4 だが 5 どうしても 6 むろん 7 ようやく

問二 傍線部①「思いがけなくも」とあるが、筆者は何がどうであることに対して思いがけなかったのか。四十字以内で説明しなさい。

問三 傍線部②「おびただしい」、③「正視しがたい」、④「異郷」の意味を書きなさい。

問四 傍線部⑤「目を突いた」とは、このとき筆者がどうしたこと表現か。次のイ～ホの中から最も適切なものを選び、その符号を書きなさい。

- イ わたしたちはガイドなしには入場できないのだから、案内役を待たせてはならないのだということに気づいたということ。
ロ 壁ぎわのガイドがうんざりした表情で、いかにも退屈そうにしているのを見て、不真面目な態度におどろきあきれたこと。
ハ 収容所跡という場所の深刻さと、そこにいる人間たちの緊張感のなさとの落差に気づいて、不安にとらわれはじめたこと。
ニ いくら仕事とはいえつても、自分の国の収容所を案内してまわることは、ガイドにとつてつらいことなのだと同情したこと。
ホ 退屈しているガイドと同じように、自分も、博物館の展示品を見ながら何となく退屈してきたことに気づいたということ。

問五 傍線部⑥「無気味に、不安にみちて感じられた」とあるが、筆者は何に対してそう感じているか。次の空所に合う部分を本文中から探し出し、はじめと終わりの五字を抜き出して書きなさい。

わたしたちが

こと。

問六 傍線部⑦「戦後の世界が象徴としての二度目の死を強いてきたこと、強いているということ」とはどういうことか。次のイ～ホの中から最も適切なものを選び、その符号を書きなさい。

- イ オシフエンチムがポーランドの小さな町であるにもかかわらず、収容所の存在で、戦後の世界で有名になっていること。
ロ 生きる場所を奪われた四百万人も人間たちがアウシュヴィッツ収容所で殺された、という記憶がわたしたちにないこと。
ハ 収容所博物館に展示された品々は、展示品というにはあまりにむごたしく、大量の人間の死を示す記念品であったこと。
ニ わたしたちが、収容所で殺された人達を、一人の人間としてとらえるのではなく、大量虐殺の死者とみなしていること。
ホ 収容所の死者をただ一人の人間として、現代のわたしたちのあいだにとりもどし、いま、ここの死者として回復すること。

問七 波線部A～Eのカタカナを漢字に直しなさい。

(四十点)

≡ 次のⅠ・Ⅱの問いに答えなさい。

Ⅰ 次の①～⑤の波線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① けが人に手厚いカ^ンゴをほどこす。
② サッカーの試合を間近で見てコ^ウフンした。
③ 会社のギ^ンム時間は九時から五時までである。
④ 世界記録ホ^シ者でもオリンピックで金メダルを取るのには簡単でない。
⑤ 今大会におけるわがチームのシ^{ョウ}ウインは休養を十分に取ったことにある。

Ⅱ 次の⑥～⑩の ・ に最も適切な漢字をそれぞれ入れて四字熟語を完成しなさい。

- ⑥ 機^心
⑦ 葉^末
⑧ 色^色 面^面
⑨ 大^大 成^成
⑩ 知^知新^新